

ことではないが、どのような意味をもった形容詞がどのボタンに対応するかという一般化が最も重要なことであり、この認識がこれまでの形容詞の研究に決定的に欠けていたということが出来る。この点は Sinclair *et al.* (1998) も同様である。

2.2 形容詞のリストそのものの問題点

2.2.1 *splendid-type* の形容詞

もともと文法書などであげる個々のボタンをとる形容詞のリストが網羅的なでないこと自体は問題ではない。問題は他にある。ひとつの例をあげよう。Quirk *et al.* (1972) と Quirk *et al.* (1985) に *splendid-type* の形容詞があって、その代表的な文は、

(1) Bob is *splendid* to wait.

であるが、この文を容認するアメリカ人は筆者が調べた限りいない。また、英米の辞書、BOE も含めて各種のコーパスを調査してもこの種の例はない。ところがイギリス人はこれを容認する人がある。もともと Quirk *et al.* (1972, 1985) は BNC という大きなコーパスを使った調査に基づいているのだから、彼らが容認されないような用例をあげるはずがないという認識があっても仕方がないが、少なくとも(1)はアメリカ人には極めて容認度の低い用例であることは明らかである。ところがイギリス人は、

(2) It is *splendid* of Bob to wait.

も使えると言う人がある。この種の例は *BBI* にもあげられている。¹⁾

(3) It was *splendid* of you to make the offer.

したがって、イギリス英語では使われる可能性がある。イギリス英語では、*splendid* は “extremely kind” といった意味で使われることが、It is very *kind* of you to show me around. のような、*kind* と同じボタンをとって表現されるということに反映されていると考えることができる。アメリカ英語では *splendid* は、人の行為について賞賛するといった意味では使われないということが、(1)(2)のような文が容認されにくいことに反映していると思われる。

ところが、WT 1991, 1990, 1989; LA 1994, BOE の検索ではこの構文は見あたらない。また、Brown, London-Lund, LOB のいずれにもない。もし(2)(3)が可能であれば、

(4) You were *splendid* to make the offer.

のように(1)の形があってそれほど不思議ではない。だが、後に述べるように、このボタンは *kind* を使った、You are very *kind* to show me around. も容認度は低いことに注意しておかねばならない。*OED*² にも *splendid of*, *splendid to* の連語の例はなく、(1)の類例は見つからない。

Quirk *et al.* (1985) に *splendid-type* としてリストされた形容詞には、*careful*, *careless*, *crazy*, *foolish*, *greedy*, *kind*, *mad*, *nice*, *silly*, *splendid*, *unwise*, *wise*, *wrong* があるが、八木 (1996: 264 ff.) ではこれらがすべて it is ... of a person to のボタンをとるかどうかが極めて疑わしいという証拠があげられている。また特に *careful* と *careless* について、統語的特徴は多くの点で異なることを論証している。

1) BOE には次の it is *splendid* to do の例がひとつあるが、これは後に述べる *dangerous-type* である。

(i) I argued here last year that it would be *splendid* to have beavers return to the Scottish hills.

(私はここで昨年ビーバーをスコットランドの丘に戻すのは素晴らしいことだという意見を述べた)

後で詳しくみるが、(1)は人を主語にとった「判断」の形容詞である。この種の形容詞には2種類あって、意味的に文主語が後続の不定詞の目的語である場合(これは事柄について述べるもので、*dangerous-type* という)と、主語である場合(これは人について述べるもので、*silly-type* という)がある。この分け方に従うと、(1)は *silly-type* である。実際に BNC で検索してみると、唯一、

(ii) He seemed to her to be too *splendid* to wash dishes.

(彼は彼女にとっては余りに素敵な人なので皿洗いなどできないように思えた)の例がある。*dangerous-type* は

(iii) a. They are *splendid* to wear.

(その服は着てみるととても素晴らしい)

b. some of these old houses can be *splendid* to live in

(この古い家は住んでみると素晴らしいだろうなと思えるものがいくつかある)

の2例である。この *dangerous-type* に対応する it is Adj. to do のタイプは2例ある。このように、BNC でも *splendid* の(1)のような使い方は極めてまれで、タイプの典型として扱うには問題があるように思う。